

☆☆東京民医連☆☆ 薬害根絶の会にゅ〜す♪

2010年9月15日発行 No.17

8・24 第11回薬害根絶デー開催！！ 真夏の照りつける日差しの中 たくさんの方が薬害根絶を訴えました！

- ❖ 厚労省前、イレッサ訴訟原告近澤さんの書「命」の文字を手に、オレンジリボンを首に巻いた人々が集い「第11回薬害根絶デー」スタート
- ❖ 「気分が悪くなった方はスタッフに声をかけて、宣伝カーには水が用意されています」という声掛けが示す如く暑い！そんな中 200～300人が集まった。
- ❖ 薬害肝炎、薬害イレッサの訴えなど多々続き、薬害日本がまだまだ続いている現実が辛く、悲しかった。
- ❖ 「碑の前行動」が始まると厚労省の中庭に大移動。薬被連代表から「薬害根絶実現への書」が長妻厚労大臣に手渡された。長妻厚労大臣の話が約5分「新薬が待ち望まれているのも事実、しかし、薬はなによりも安全でなければならない。薬害をおこさないために厚労省全体で取り組んでいきたいと思う」という発言は正直嬉しかった。



薬害イレッサ訴訟 入廷行動 (8/25)



薬害イレッサ訴訟 報告集会 (8/25)

- ❖ パレード開始。シュプレヒコール「薬害はもういやだー」は、薬害被害はもうこれで終わりにして！という心の底からの叫びの様だった。
- ❖ 弁護士会館で集会。薬害被害者の生の声、弁護士からの裁判の報告、薬害被害をなくすために何ができるか・という真剣さの中に、音楽がこちよい風を織り交ぜ、爽やかな元気をくれた。いい会だった。
- ❖ 銀座駅前宣伝にGO！GO！うわっ100名近い参加。

右上に参加者からのメッセージをもれなく掲載

- ☆うだるような暑さの中参加しました。若い人の参加が目立ち、多いに励まされました。夕方の民医連交流会でも薬学生や地方の1～2年の若者の発言を聞き、この熱気を職場に持ち帰って、ぜひ皆のものにせねばと強く感じた1日でした。
- ★思えば2000年に初めて参加してから10年！しかし10年たっても薬害はなくなっておらず、それどころか次から次へと起こっています。今回は有楽町マリオン前宣伝にも参加しましたが、大勢の方が参加していて嬉しい気持ちと、何百、何千回このようなことをやらなければならないのかと、この国の在り方も改めて考えてしまいました。薬害根絶したい気持ちと、その難しさをいっそう思った1日でした。
- ☆今年は、薬害イレッサ訴訟結審直前であったため、全国の民医連から多くの参加者がありました。薬害肝炎訴訟の和解後に提訴した原告さんも大勢参加しています。薬害の連鎖を断ちきるため、若い職員が被害者の訴えを生で聞いていました。イレッサは判決までに後数カ月、学習と支援の活動を強めなければいけないとの思いを強めた2日間でした。
- ★診療所の所長が図書室に寄贈された「サリドマイド物語（医歯薬出版）」を読みながら、厚労省に向かいました。猛暑に負けず、「オレンジのバンダナ」に薬害の禍根を忘れずに、というメッセージが詰まった集会でした。私たちにできることは、何か？

～薬害イレッサ訴訟東日本が結審を迎えました～

東医研(中野)から「薬害のない明るい未来へ！No7」をいただきました。8/25の裁判傍聴をした4名の手記がこの日(結審)全容を報告してくれています。次回、抜粋を掲載させていただきます。「がん患者の命の重さ」を問うたこの裁判で、「命の重さ」が尊重される判決ができるよう、これからも一層の支援をお願いいたします。



☆署名のお願い☆

『抗がん剤副作用死亡と医薬品副作用による胎児死亡について 被害救済制度の創立を求める請願』にご協力ください！

♥署名用紙送ります。
このニュースを読んでもらうこと、その内容を身近な人に伝えてくれることが薬害根絶の大きな力になっています。